2025年9月1日、日興アセットマネジメント株式会社は「アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社」に社名変更します。
社名変更後URL：www.amova-am.com
amova アモーヴァ・アセットマネジメント
アセットマネジメント(am)をムーヴ(move)する

nikko am Nikko Asset Management

進化するAI ～生産性を高める次世代技術が未来を変える～

ご参考資料

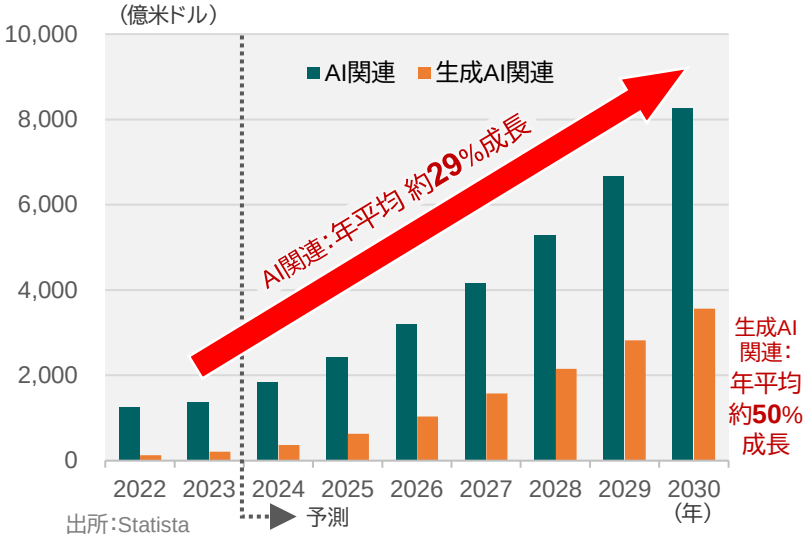
2025年3月作成

- AI（Artificial Intelligence、人工知能）とは、人間の思考プロセスと同じように動作するプログラムのことで、労働負担の軽減や生産性・顧客満足度の向上などに活用されています。
- これまで、主に既存データで学習して得た知識を新たなデータに適用したり、予測したりする際に利用してきましたが、昨今、新たな文章や画像を生成するAI（以下、生成AI）が実用化され、知識を必要とする分野などでの自動化が進んでいます。
- さらに、意思決定を支援するAIエージェントや、ロボットなどが現実世界での行動を知覚・理解・実行するフィジカルAIといった研究・開発が進んでいます。

世界のAI関連市場と生成AI関連市場

- AIは、単純な制御を行うエアコンの温度調節や漢字変換から、人間の知識をプログラムに取り入れたAIチェス・将棋、チャットボット、さらに高度な処理を伴うツールにまで搭載されています。
- 最近は、学習量の増加に伴う精度の向上や出力の早さ、使い勝手の良さなどから生成AIの利用が増え、プレゼンテーション資料や娯楽分野のコンテンツ、医療画像解析・治療計画の作成などへの応用が広がっています。
- 2024年に急成長した上位のAI分野は、画像生成（約5.4倍）、チャットボット（約3.5倍）、コード生成（約2.1倍）でした。（出所：G2、2023/7/1～2024/6/30の調査）

■ **世界のAI関連市場と生成AI関連市場の推移**
（2022年～2030年　※2024年以降は予測）

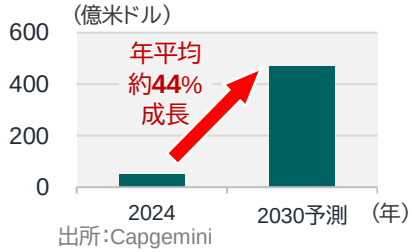


出所：Statista

AIエージェントはデータ分析のコンシェルジュ

- AIエージェントとは、設定された課題を達成するために、自律的に情報を収集・分析し、作業実行までを担い、意思決定の支援などを行うシステムのことです。
- ウェブの閲覧やオンライン注文、情報収集など、連続する命令を処理できる専門プログラムへと進化し、生産性の向上が期待されています。
- 2024年の企業アプリケーションへの搭載比率は1%未満ですが、2028年には33%まで上昇すると予測されています。（出所：Gartner）
- 米国企業ではセールスフォースやマイクロソフトなどがサービスを開始しており、日本企業では富士通やNECなどが順次提供を開始しています。

■ **世界のAIエージェントの市場規模予測**



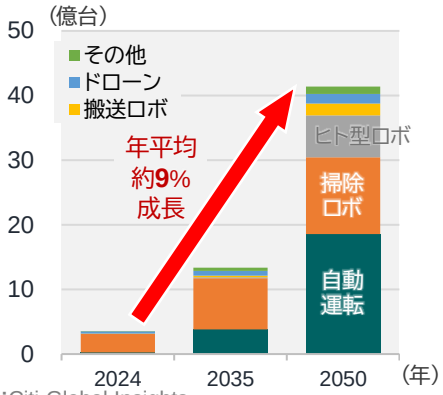
出所：Capgemini

デジタル世界と現実世界を繋ぐフィジカルAI

- フィジカルAIとは、AI技術とロボット技術を組み合わせ、現実世界で自律的に判断・行動できるシステムのことです。
- フィジカルAIを利用することにより、例えば、自動運転はもとより、複雑な作業を行うヒト型ロボットや手術ロボットの効率性や精度が向上し、人間との自然なやり取りが可能になると期待されています。
- AIの進歩や人手不足への対応、技術革新などを背景に、フィジカルAIを搭載したロボットは、2035年に約13億台、2050年に約41億台が予測されています。（右図）
- 参考として、NVIDIAのフィジカルAIプラットフォームとデータ生成ツールを使った事例を紹介します。（出所：Nvidia）

安川電機：
AIと産業用アームロボットを統合した、自律ロボット「MOTOMAN NEXT」
トヨタ自動車：
ロボットの作業を再現・検証し、物理的特性を複製するデジタルツインをモデル化
セブン＆アイ HD：
店舗運営をコンピュータービジョンモデルで分析し、効率性と安全性を向上

■ **世界のフィジカルAIの分野別市場規模予測**



出所：Citi Global Insights
https://www.citigroup.com/global/insights/the-rise-of-ai-robots

※上記は過去のものおよび予測であり、将来を約束するものではありません。※公開情報など信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成。情報の正確性・完全性について当社が保証するものではありません。
ページ記載の銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有・非保有および将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。